

令和8年度第6回士別市教育委員会会議録

1. 日 時 令和8年9月25日（金）午後1時30分～午後3時10分
2. 会 場 士別市教育委員会 会議室
3. 出席者 教育長 泉 山 浩 幸 生涯学習部長 丸 徹 也
職務代理者 馬 場 千 晶 学校教育課長 佐 藤 寛 之
委 員 山 田 敦 久 社会教育課長 阿 部 敦
委 員 多 田 千 鶴 学校教育アドバイザー 岩 谷 孝 二
学校給食センター所長 田 上 泰 成
学校給食センター副長 丸 奈央子

4. 議 件（発言者、議事要旨及び議決事項）

1 教育長挨拶

【各種イベント等について写真などを用いて説明】

皆さん、お忙しいところありがとうございます。現在、南小学校に川内村から3泊4日の行程で子どもたちが来ています。今年は7人ですが、来年は4人になるということです。その次の年からはまた増える予定です。南小学校は20人ずつの2クラスでちょうどよい人数ですが、7人の子どもたちにとっては、大人数の中で授業をすることがすごく刺激になっているようです。

また、昨年から防災・安全教育についても取り組んでいます。川内村の教育長さんが震災を経験された方で、自ら指導いただいています。2011年の震災の時には、教育長さん自身も埼玉県の方へ避難され、教員も含めて学校が閉鎖になったため、数年間、埼玉県で教員として勤務されたという話も伺っています。

子どもたちには、災害が少ない地域だからこそ、「学校ではどんな備えをしているのか」「いざという時にどうするのか」など、こうしたことをきっかけに、家庭でも防災について話してもらえればと思っています。

本日は、7人の子どもたちが40人の中に入ってドッジボールをしていました。今はボールが柔らかくて、同時に2個使いながら子どもたちの運動量を高めていました。

そのほか、昨年から南小学校では地域人材を活用したクラブ活動も行っています。市の職員が参加したり、野球部の職員がドッジボールに入ったり、保護者の方にも参加していただいています。もり屋さんにも来ていただいて、デザート作りなどもしていました。

次に、台風の対応についてです。東京23区で対応が大きく違っていたというニュースがありました。緊急で学校を休みにしたところ、授業を行ったところ、学校判断としたところ、登校時間を繰り下げたりオンライン授業にしたところなど、23区の中でも対応が分かれていました。本市でも、いざという時には市町村教育委員会の判断もありますし、雪の状況によって学校で判断することもあるので、判断基準をどうするかということを考えておく必要があります。

中学校の体育祭や文化祭も見に行きました。100メートル走で最後まで走り切ることがなかなかできない子どももいます。そういう中で、最後まで走り切れるように指導することは大事です。中学校のステージ発表では、士別の由来や食べ物などをクイズにして発表していました。知らないことも多く、とても勉強になりました。

それから、今日の新聞を見て驚いたのですが、札幌市では教頭先生が牛乳の受入れ対応をしているという話がありました。朝6時台から対応することもあるそうで、学校管理職の仕事も本当に大変だと思いました。「管理職」という呼び方もどうなのかなと思っています。管理するというより、人を育てる「育成職」という意味合いで、イメージを変えていった方がいいのではないかと思います。

10月30日には土教研の研修もあります。加賀市の教育長補佐の方が、教育ビジョンの話をされるようなので、私も勉強になるため参加する予定です。

秋もあつという間に深まってきました。子どもたちにとっては、学習の秋、読書の秋、スポーツの秋ということで、いろいろな活動に取り組んでもらいたいと思います。

2 議事について

○泉山教育長 進行

議案第30号「令和8年度全国学力・学習状況調査の結果の分析について」よろしくお願いします。

○岩谷アドバイザー

士別市における令和8年度全国学力・学習状況調査の結果等の分析について説明します。

3ページ、7番の「教科に関する調査の結果」です。黒字は全国値、青字は全国値を上回るもの、緑字は全国値を下回るものの全道値以上、赤字は全国値以下を示しています。士別市では、小学校は国語、算数、中学校は国語、数学が全国値以上となっています。英語は全道値を上回りましたが、全国値以下となっています。

4ページは過去の教科調査との比較です。年度ごとに教科の難易度は調整していないため、正答率が下がっていても、問題自体が違うことから、数値が下がったことだけで評価することはできません。そのため、全国との比較を尺度としています。

5ページは、小学校の教科を内容別、領域別、問題別に見たものです。特に小学校の算数では、記述式問題が全国平均を下回っており、依然として課題があります。中学校では、国語、数学ともに、一般的に苦手と言われる記述式問題で全国平均を上回っています。英語は全国平均を下回りましたが、学習時間が十分な子どもたちは全国平均以上の正答率となっています。

次に質問紙調査です。青字だから良い、赤字だから悪いという単純なものではありません。例えば動画の視聴時間も、全国平均以上だから良いとは限らず、長すぎることには注意が必要です。

学習習慣では、「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらい勉強しますか」という質問で、中学生が全国平均を10ポイント程度下回っており、課題と捉えています。

令和7年度調査で捉えられた健康上の課題の1つ目は、ウェルビーイングの向上です。小学校では、普段の生活の中で幸せな気持ちになることが「よくある」という児童が少ないという課題がありました。士別市では増加していますが、「あまりない」「全くない」という児童が2.6%程度いることから、子どもたちが幸せな気持ちを感じられるようにすることは、継続した課題と捉えています。

2つ目は、平日のICTを活用した学習です。小学校では、学校の授業時間以外にICT機器を学習に活用している時間が少ないという課題があります。30分より少ない児童の割合は増えていますが、全国平均と比べるとまだ少ない状況です。

家庭学習のスタイルやICT機器の使い方には違いがありますが、全く使っていないと回答した児童が23%程度いることから、平日の家庭学習におけるICT機器の利用は継続した課題と捉えています。私自身、現場を離れているため実態を詳しく把握できていませんが、端末を持ち帰っていないのか、家庭のWi-Fiなどの接続環境に課題があるのか、利用するアプリ等がないためなのか、そのあたりを

把握できればと思っています。

平日の家庭学習時間については、中学生の家庭学習時間が少ないという課題があります。今年度、「学校の授業時間以外で普段1時間以上勉強している生徒」の割合は48%程度で、前年度の34%程度から増加しましたが、全国平均は62%程度で、依然として全国平均を下回っています。中学生の平日の家庭学習時間の確保は、継続した課題です。

次にクロス集計です。全国とほぼ同じ傾向が見られましたが、正答率と照らし合わせると興味深い傾向がありました。

メディアとの接触時間について、小学生では接触時間が少ないほど正答率が高く、中学生では4時間以上の層で正答率が低くなる傾向が見られます。一方、小学生では4時間以上の子どもの国語で比較的高い正答率となっている部分もあり、今後の分析の必要性を感じています。

学校以外の学習時間について、中学生では勉強時間が少ない子どもに課題があり、30分未満や宿題を全くしない層では正答率が低くなっています。一方、小学生では2時間以上、3時間以上勉強している子どもの正答率が低い部分があり、学習内容に課題があるのではないかと思います。例えば、漢字を1つ50回、100回書くなど時間だけをかけ、効率的な学習となっていない可能性もあります。

土曜日や日曜日などの学習時間については、中学生では2時間以上勉強している生徒の方が正答率が高く、特に英語では学習時間によって明確に結果が分かれています。新しい言語を習得するためには、ある程度時間が必要だということを示しているのではないかと思います。

ICT機器の活用については、ほぼ毎日、1日に複数の授業時間で活用している児童生徒の正答率が高くなっています。授業で興味を持って調べたり、ICT機器を使ってまとめたりするなど、主体的に活用している子どもたちの正答率が高いことが分かります。

土別市ではICTを活用した学習が日常的に行われており、これは強みだと思います。一方で、平日の家庭学習時間が全国平均を大きく下回り、特に学習時間が少ない子どもたちで正答率が低くなっていることから、平日の学習時間の確保は依然として課題です。

最後に、各学校の授業改善や地域・家庭の皆様のご理解とご協力により、全国平均を上回る教科が多くある結果となっています。本当にありがたいことだと思っています。各学校においても、調査結果の分析を進め、改善に向けた取組を進めていきたいと思っています。

○泉山教育長

英語について、私自身も海外旅行で自分の英語が通じる喜びを感じた経験がある。英語では、スピーキングや聞く・話すことにも、もっと力を入れていく必要があると思う。

○馬場代理

都会と地方では、受験や英語を学ぶ環境に違いがある。都会では、ピアノを習うような感覚で英語を習っている子どももいる。土別と全国では英語スクールなどの環境や教育熱にも違いがあると思う。

だからこそ、庄司さんのように頑張っている子どもがいることは嬉しい。一人の頑張りが周りの子どもにも広がっていくと思う。

○泉山教育長

庄司さんだけでなく、翔雲の授業もなるべく見に行っているが、子どもたちは本当にやる気を持って勉強している。現在、私立高校の推薦などが始まっているが、公立高校の倍率も平均で1.0倍を切っており、現実的に全員が入学できる環境にあるのではないかと思います。

以前は、小学校の方が1時間以上家庭学習をしている割合が高く、中学校が低かったが、昨年度から中学生の方が高くなってきている。しかしながら、学ぶ意義が少し薄れていると感じることもある。

○馬場代理

進路を意識した時に、「今、自分ができることは何か」というところでスイッチが入る子もいる。図書館でもテスト勉強をしている子どもたちがいる。

○泉山教育長

目標や将来像が見えてくると勉強するようになる。ただ、中学3年生になってからでは難しい面もあると思う。

○馬場代理

高校に入った先ではなく、まず高校に入ることが目的になっている子も多い。特に地元の高校への進学を決めている子は、あまり緊迫感がないのかなと思う。

○泉山教育長

義務教育の段階から、学力だけでなく、自己肯定感や将来の夢など、漠然としたものでもよいので持っていれば、進路や主体的な学習につながると思う。

○馬場代理

「将来の夢」と言われても、子どもたちにはなかなかピンとこないと思う。2、3年先の近い将来しか見えない子も多く、夢が分からないというのも当然だと思う。ある程度の学力を身につけておけば、将来、いろいろな選択肢を選べるようになる。中学1年生は1年生の勉強、2年生は2年生の勉強をしっかり身につけ、後々につなげていくことが大切だと思う。

○山田委員

子どもたちに夢を持ってもらうことは簡単に言えるが、実際には物理的な環境や整理の仕方など、いろいろな問題がある。「子どもに夢を持たせる」と言っても、どこから手をつけ、何を根っことして夢が生まれるのか、なかなか答えが出ないところが難しい。

○馬場代理

一方で、学力ばかり上げると、大学のない街から子どもたちが外へ出て、そのまま帰ってこなくなるという見方もあり、「勉強させると地元からいなくなるのではないか」という保護者の声を聞くこともある。私は、小学校1年生は1年生なりの学力を身につけて2年生に進み、学年ごとの学習を積み重ねていくことが大事だと思う。置いていかれる部分が大きいと、後から取り戻すことが難しくなり、「分からない、できない、面白くない」となってしまう。そうならないよう、「できた、面白い、もう少しやってみよう」という経験を積み重ねることが大切だと思う。

○泉山教育長

まずは、それぞれの学年の勉強を身につけることが大事です。成績に差があっても、必要なことを習得させることが大切だと思う。

○多田委員

英語について、苦手な子が多く、平均点も低いという話を聞いた。小学校では先生との会話を中心にしていたのが、中学校に入ると急に「授業」として学ぶようになるため、そのギャップから英語が嫌いになる子もいるのではないかなと思う。英語を勉強したい気持ちはあるのに、嫌いが先に来る子もいるので、そのギャップをなくしていけるとよいと思う。

○泉山教育長

小学校では3、4年生から外国語活動、5、6年生では外国語を学んでいるが、基本的には楽しいコミュニケーションや国際理解、外国文化を学びながら、話す・聞くことが中心です。

一方、中学校からは、小学校で最低限の読み書きを学んでいないと、いきなり読む・書く学習にな

り、ついていけないという話も聞いている。小学校でも、読む・書くことをある程度扱う必要があると思う。中学校では、話す・聞くことに加え、読む・書くことも重要で、文法が分からなければ過去・現在・未来も分からなくなる。小学校と中学校の外国語教育の接続は大きな課題であり、4領域をバランスよく、子どものモチベーションを高めながら指導する必要がある。

○多田委員

以前、英語の先生に英語の先生になったきっかけを聞いたところ、ディズニー映画を英語で見て、英語のまま理解して楽しみたいと思ったことから英語を勉強したということだった。そういうきっかけを子どもたちにも作ってあげられるとよいと思う。BGMで英語の曲を流すなど、英語に慣れ親しめる環境を作ることもできるのではないかな。

○泉山教育長

ALTについても、単にネイティブスピーカーとして話をするだけでなく、異文化理解や教材などを活用し、学ぶ意欲を高めていくことを考えていきたい。まさに課題だと思う。

○山田委員

小学生は素直に勉強を受け入れる子どもが多いが、中学生になるといろいろな情報が入り、変わってくる。朝日地区なども含め、9年間の学びの連続性を考えた時に、学校が好きだという感情を育てていける仕組みが必要だと思う。

○泉山教育長

今の英語の話は、小学校と中学校の間に段差があるということなので、指導の一貫性を持たせることは非常に大事だと思う。他に意見等があれば、今月中にご連絡いただきたい。

(全員了承)

3 その他

◇令和8年度学校給食アンケート調査について

丸副長説明

残食、給食指導、川内村児童の給食の様子、ふるさと給食などについて意見交換

◇部活動の地域展開に関する市民説明会の結果について

佐藤課長説明

◇第3回定例会における一般質問について

丸部長説明

◇予算決算常任委員会（決算審査）における通告について

丸部長説明

◇上川管内教育委員会連合会第2回委員研修会について

佐藤課長説明

教育委員の出席予定、集合時間等について確認

◇市内小学校の学芸会について

佐藤課長説明

教育委員の出席予定について確認

◇当面する今後の日程について

丸部長説明

午後3時10分、会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署 名 者

泉山浩幸

会議録調整者

佐藤寛之